

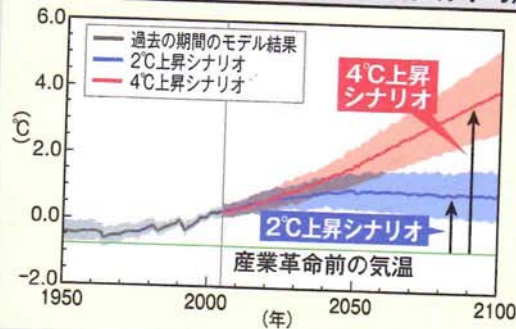
地球の未来を守るためにできること

21世紀末に世界と日本はこうなる

文

部科学省と気象庁がまとめた「日本の気候変動2020」は、21世紀末の世界平均気温が産業革命前に比べて2℃上昇する場合と、4℃上昇する場合のシナリオをシミュレーションしている。そのとき、日本がどうなっているのかは左下の表にまとめた

21世紀末に向けた地上気温の変化(世界平均)



21世紀末の日本

	2℃上昇シナリオ	4℃上昇シナリオ
年平均気温	約1.4℃上昇	約4.5℃上昇
猛暑日の年間日数	約2.8日増加	約19.1日増加
冬日の年間日数	約16.7日減少	約46.8日減少
日降水量200mm以上の年間日数	約1.5倍に増加	約2.3倍に増加
「非常に激しい雨」の頻度	約1.6倍に増加	約2.3倍に増加
積雪深の年最大値及び降雪量	約30%減少(北海道ほか一部地域除く)	約70%減少(北海道ほか一部地域除く)
日本沿岸の平均海面水位	約0.39m上昇	約0.71m上昇
オホーツク海の海水面積(3月)	約28%減少	約70%減少

※「日本の気候変動2020」(文部科学省・気象庁)より

とおりだ。

英国で開催された国連気候変動枠組み条約締約国会議(COP26)では、さらに踏み込んで産業革命前からの気温上昇を1.5℃とする努力目標が合意された。そのためには、2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロにする必要がある。

日本の水素技術が世界を救う

炭

素排出量を実質ゼロにするため、化石燃料に代わるエネルギーを各国が研究・開発している。日本が官民挙げて次世代エネルギーとして注力しているのが、水素だ。

町に世界最大級の水素製造装置を備える「福島水素エネルギー研究フィールド」が完成。太陽光で発電された電気を使って水を分解し、水素を製造する実験を行っている。実用化されれば二酸化炭素を排出せずに、水素を燃料として活用できる。日本の技術力が世界を救うかもしれない。



水素エネルギー研究フィールド



カセットガスで有名な岩谷産業も参加

身近な生活から始める

温

暖化を食い止めるために、一人ですることは少ない。しかし、日本の人口は1億2000万人。多くの人が行動することで変化が生まれるはずだ。前出の森朗氏が言う。

「たとえば温かいお茶が飲みたくなったときに、ペットボトルのお茶を飲むのではなく、急須でお茶を入れるだけで、その分のゴミが減ります。

我が家では牛乳は紙パックではなく、リユースできる瓶のものを飲んでいきます。ほんのささいなことでもいいんです。少し不便でも、昔のような生活を意識することで、将来の温暖化対策につながっていくのではないかと思います」